



日本SPF豚協会

だより | 2018. 4
No. 71

SPFという用語は、学生時代に実験動物学で教わったと記憶しています。当時の認識はSPF動物とはマウス、ラット、ネコなどでした。SPF豚協会は来年で設立50周年を迎えますので、筆者がSPFを知る前からすでにSPF豚が作出されていたこととなります。作出に尽力された諸先輩方の業績に改めて敬意を表します。

SPFは Specific Pathogen Free の略語で、指定された病原体（細菌、ウイルス、寄生虫等）を持っていないという意味です。SPF豚で指定されているのは主に養豚の生産性を阻害する病原体ですので、健康に育てられた豚です。SPF豚でも「指定された病原菌」以外の一般的な細菌は保持していることとなりますから、**SPF豚は決して無菌ではありません**。病原体を含む検出可能なあらゆる微生物をまったく持っていない状態は Germ-Free と呼ばれ、理論的には帝王切開や子宮切断で作出できます。しかし、Germ-Free 豚が無菌であり続けるためには微生物がいない飼育環境と飼料が必要です。「指定された病原体を持っていない」という概念が、「人に有害な病原体を持っていない豚」⇒「あらゆる菌を持っていない」⇒「無菌豚」へと誤って拡大解釈されてしまったのかもしれませんが。

日本SPF豚協会では、高い衛生レベルが求められるGGP・GP農場に対し、監視しつつ常に排除すべき疾病9つ、また、監視しつつ、排除に努めなければならない疾病3つを指定しています。CM農場、実験用家畜ブタ生産農場も同様の高い衛生レベルが求められています。

SPFを厳密に解釈すれば、指定疾病の病原体はすべて農場にない、つまり農場から排除されていることとなります。疾病によっては排除ではなく高度にコントロールされている状態のものはSPC (Specific Pathogen Controlled (注：筆者の造語)) という表現が適当かもしれません。排除すべき疾病には効果的なワクチンや抗菌剤がなく、一旦

提言

SPF豚のこれから

日本SPF豚協会SPF豚農場認定委員会委員
日本農産工業(株)畜産技術センター

櫻井 忠



侵入を許すと簡単には排除できず、大きな経済被害をもたらすものもあります。このような疾病は真にフリーであるべきでしょう。

SPF豚農場にはSPFのF（フリー）にこだわってほしい、と考えています。清浄化が可能な疾病や有効な防疫対策、飼育管理法が確立されている疾病もあるからです。SPF豚農場の認定では、生産成績、ヘルスチェック成績、薬品費（抗菌剤の使用状況）に加えて、高い衛生レベルを維持するための防疫設備、防疫管理について基準を設け、その遵守を農場側に求めています。それらの基準は、疾病の清浄化や清浄維持の大きな武器のひとつになるはずです。SPF豚農場において、ひとつでも多くの疾病がフリーであれば、日本SPF豚協会が掲げる認定基準の考え方がさらに広まっていくと思います。

近年、農場HACCPやJGAPの認証を取得する養豚農場が増えています。HACCPは衛生管理を向上させて健康な家畜を生産することであり、JGAPは食の安全や環境保全を目的とした制度です。また、AW（アニマルウェルフェア、動物福祉）やAMR（薬剤耐性制御のための抗菌剤の適正使用）が畜産農家に求められています。これらの社会ニーズや環境の変化にSPF豚農場が先駆けて応えていくことが、今後の課題になると思います。

SPF豚農場と飼養頭数の分布 (2018年3月現在)

表1. 認定農場の分布

飼養規模(頭)	北海道	東北	関東	北信越	東海近畿	中四国	九州	合計	飼養母豚数
99以下	2	0	6	0	0	1	0	9	641
100～299	5	6	21	3	0	1	5	41	7,884
300～599	4	7	8	3	0	9	7	38	15,523
600～999	2	9	4	2	2	2	11	32	25,078
1,000以上	0	10	3	0	0	1	7	21	28,478
計	13	32	42	8	2	14	30	141	77,604
子豚育成・肥育専門	0	3	13	5	1	3	18	43	
合計	13	35	55	13	3	17	48	184	

飼養母豚総頭数	4,439	25,735	14,594	3,140	682	6,898	22,116	77,604
---------	-------	--------	--------	-------	-----	-------	--------	--------

表2. 認定農場および飼養母豚数の推移

年度	2013		2014		2015		2016		2017	
	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数
北海道	15	5,016	15	5,096	14	4,903	14	4,942	13	4,439
東北	32	25,446	33	26,438	31	25,975	32	25,901	32	25,735
関東	46	14,824	45	14,598	42	14,546	43	14,779	42	14,594
北信越	10	3,544	9	3,441	9	3,421	9	3,417	8	3,140
近畿東海	1	0	1	0	1	0	1	0	2	682
中四国	15	6,607	15	7,457	14	7,630	14	7,615	14	6,898
九州	31	23,283	31	23,106	32	23,943	30	22,755	30	22,116
子豚育成・肥育専門	33		33		35		35		43	
全国	183	78,720	182	80,136	178	80,418	178	79,409	184	77,604

例年同様、やむを得ない事情により認定を休止している農場については、戸数は集計に含め、頭数は含めない。認定農場数は184（GGP・GP農場19、子豚育成・肉豚肥育専門農場含む）と微増となったが飼養母豚数は減少した。農場数の増加は1農場扱いだった2サイト農場を実態に合わせてカウントしたことと肥育専門農場の増加によるもので、飼養頭数の減少は大規模農場の火災等による認定休止や、新設農場がフル稼働に至っていないことによる。全国の飼養母豚数83.9万頭（平成29年2月現在、畜産統計）に占める認定SPF豚の割合は9.2%であった。

CM認定農場の生産成績 (2017年度)

表1 一貫生産農場

	件数	母豚数	生産指数	農場回転数		農場飼料要求率		出荷頭数/母豚		A薬品費/肉豚	
	102	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数
基準値			100.00	1.70	15.00	3.19	25.00	21.35	40.00	286	20.00
A	26	672	125.06	1.97	17.35	3.01	26.41	24.80	46.47	74	34.84
B	26	361	110.69	1.79	15.82	3.24	24.62	21.93	41.10	155	29.15
C	25	471	101.23	1.76	15.57	3.20	24.95	22.34	41.85	302	18.86
D	25	563	92.49	1.65	14.57	3.29	24.21	20.74	38.85	359	14.89
最高成績		986	136.18	2.06	18.17	2.76	28.40	27.31	51.16	22	38.45
最低成績		631	87.06	1.26	11.13	3.42	23.19	16.57	31.04	262	21.70
平均値		517	107.57	1.80	15.84	3.18	25.06	22.47	42.10	220	24.58

表2 繁殖専門農場-II (分娩・離乳後、子豚を育成し出荷している農場)

	件数	母豚数	生産指数	分娩回数 / 年		離乳頭数 / 母豚		出荷子豚数 / 母豚		A 薬品費 / 子豚	
	10	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数
	基準値				100.00	2.30	20.00	22.53	20.00	21.43	40.00
A	3	1,121	124.55	2.45	21.31	25.68	22.80	24.60	45.93	44	34.51
B	3	1,219	112.90	2.38	20.66	24.80	22.01	24.01	44.82	117	25.40
C	2	862	98.90	2.32	20.21	22.37	19.86	21.13	39.44	165	19.41
D	2	1,016	95.13	2.37	20.58	23.80	21.13	23.11	43.14	238	10.28
最高成績		1,253	129.01	2.46	21.37	25.81	22.91	24.92	46.52	14	38.21
最低成績		913	94.32	2.35	20.41	22.59	20.05	22.63	42.24	227	11.62
平均値		1,077	110.04	2.39	20.75	24.38	21.64	23.43	43.74	129	23.91

表3 繁殖専門農場繁殖-I (分娩・離乳後、直ちに出荷している農場)

	件数	母豚数	生産指数	分娩回数 / 年		離乳頭数 / 母豚		出荷子豚数 / 母豚		A 薬品費 / 子豚	
	5	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数
	基準値				100.00	2.30	20.00	22.53	20.00	22.53	40.00
平均値	5	830	129.13	2.54	22.06	29.08	25.82	29.12	51.70	47	29.55

表4 子豚育成農場 (繁殖専門農場-Iから離乳子豚を導入し、肥育用素豚として出荷している農場)

	件数	出荷頭数	生産指数	1日平均増体量		出荷率		A 薬品費 / 子豚	
	2	平均		実績 (g)	指数	実績	指数	実績	指数
	基準値				100.00	445.00	40.00	95.00	40.00
平均値	2	52,908	133.93	538.09	48.37	98.81	60.88	54	24.68

表5 肥育専門農場-II (繁殖専門農場-IIまたは子豚育成農場から子豚を導入し、肥育している農場)

	件数	出荷頭数	生産指数	農場飼料要求率		出荷率		A 薬品費 / 肉豚	
	17	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数
	基準値				100.00	3.30	55.00	97.50	25.00
A	5	11,405	123.84	2.69	65.22	99.12	41.17	142	17.45
B	4	10,451	110.78	3.23	56.22	97.81	28.01	85	26.55
C	4	11,958	101.51	3.06	58.95	97.31	23.08	129	19.48
D	4	13,566	86.69	3.58	50.39	97.58	25.79	186	10.51
最高成績		3,989	144.69	2.38	70.34	99.50	44.99	67	29.36
最低成績		5,341	80.03	3.62	49.69	96.94	19.35	183	10.99
平均値		11,819	106.77	3.11	58.14	98.02	30.20	136	18.44

表6 肥育専門農場-I (繁殖専門農場-Iから子豚を導入し、肥育している農場)

	件数	出荷頭数	生産指数	農場飼料要求率		出荷率		A 薬品費 / 肉豚	
	1	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数
	基準値				100.00	3.25	55.00	95.00	25.00
平均値	1	13,231	86.43	3.05	58.36	88.88	-5.62	62	33.69

表7 肉豚または子豚1頭あたりA薬品費使用

一貫経営

薬品費 / 肉豚	農場数	平均金額
100 円未満	27	51
100 円～ 199 円	22	142
200 円～ 299 円	14	249
300 円～ 399 円	29	354
400 円～ 450 円	10	423
平均		220
最高		3
最低		441
上位 25%の平均	26	74

繁殖専門農場 (繁殖-II)

薬品費 / 子豚	農場数	平均金額
100 円未満	4	52
100 円～ 199 円	3	133
200 円～ 250 円	3	227
平均		129
最高		14
最低		249
上位 25%の平均	3	44

肥育専門農場 (肥育-II)

薬品費 / 肉豚	農場数	平均金額
100 円未満	5	59
100 円～ 200 円	12	168
平均		136
最高		35
最低		197
上位 25%の平均	5	142

日本脳炎とは

家畜の日本脳炎は、1935年に馬の流行性脳炎として調査が始められ、その後も長きにわたって馬および豚の重要な病気として認識されてきました。一方、近年わが国では本病の発生件数が少ない状況が続いており、養豚業界においても実際の症例に遭遇したことがない生産者や獣医師の方も少なくないものと思われまます。しかし、今もなおアジアの諸外国では日本脳炎ウイルス（Japanese encephalitis virus：JEV）が広くまん延しており、家畜や人における日本脳炎の発生も数多く報告されています。そして、わが国においても豚のJEV感染例は毎年のように確認されており、異常産も報告されています。つまり、日本脳炎の発生リスクは依然として存在しており、決して軽視できません。

原因ウイルスおよび病態

日本脳炎の原因となるJEVは、自然界において蚊（主にコガタアカイエカ）によって媒介されます。また、JEVは豚の体内でよく増殖するため、結果として感染蚊を増やすことから、豚はJEVの「増幅動物」といわれています。一方、馬や人は「終末宿主」とされ、JEVに感染した馬や人から蚊が吸血しても、次の伝播は起こらないと考えられています。このウイルスは、東アジア、東南アジアおよび南アジアに分布し、さらに、パプアニューギニアやオーストラリア北部への分布も確認されています。豚はJEVに感染してもほとんどが不顕性感染ですが、母豚の異常産（流産、死産、先天異常子の出産）と種雄豚の造精機能障害が畜産上の問題となります。JEVに対する免疫のない妊娠豚が感染を受けると、分

娩子豚の約40%に異常子が発生するといわれています。妊娠豚に感染したJEVは、血流に乗って胎盤に到達し、胎盤胎子感染を起こして胎子は死亡します。流産や長期在胎の経過をとる場合もありますが、分娩予定日前後に異常子を娩出する例が圧倒的に多いことが知られています。妊娠末期に死亡したと思われる大きな白子、皮膚や内臓が汚い暗褐色を呈している黒子、ミイラ化した小さな胎子、脳水腫のため脳腔に漿液が貯留しているもの、皮下に出血や血様膠様浸潤がみられるものなどが娩出されます。1腹の胎子全部が黒子の場合もありますが、これらの様々な段階のものが混在することが多いようです。また、感染しても胎内で死亡せずに娩出され、生後まもなく痙攣、震え、旋回、および麻痺といった神経症状を呈して死亡する例もしばしばみられます。種雄豚では、交尾欲が減退し、陰囊の充血や水腫、精巢上体の硬結がみられ、精液性状が異常となります。



診断の際には、臨床観察、剖検、血清学的検査を実施し、発生時期やワクチン接種歴も考慮します。また、必要に応じてウイルス学的検査や病理学的検査を実施します。なお、筆者らは、病畜からJEVが分離あるいは検出された場合、現行のワクチンが有効なウイルスであるかを確認するため、JEVゲノムにおいて抗原性を決定する領域（E領域）の遺伝子解析を継続的に行っています。これまでのところ、わが国で豚から検出されているJEVは、抗原性の観点から現行のワクチンによる免疫が有効と考えられます。



生ワクチンおよび不活化ワクチンが利用可能です。春～秋に種付けを予定している母豚に対しては、JEV活動開始時期までに十分な免疫を賦与することによって、JEVによる異常産が予防可能です。本病を含め、蚊やその他の節足動物が媒介するウイルス感染症（アルボウイルス感染症）は、免疫のない集団で新規の流行を起こすとそれが大規模な発生となり、大きな被害を及ぼすことがあります。病気の発生がない状況が続いている時こそ、油断は禁物です。ワクチン接種による予防を行うことで、大切な家畜を守ることが重要です。

ブタのウイルス病

連載 No.16

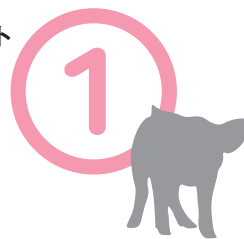
豚の日本脳炎



農研機構動物衛生研究部門
越境性感染症研究領域
暖地疾病防除ユニット（九州研究拠点）
主任研究員 白藤浩明

新連載 種豚の能力を最大限発揮させるための飼養管理、栄養管理のポイント

繁殖成績を引き出すための 若雌の育成管理



中部飼料(株)研究技術部養豚グループ 石川靖之

昨年秋の協会セミナーの講演で大変好評を博した「多産系母豚の能力を引き出すための栄養管理」。その内容について講師の石川さんに連載をお願いし、改めてご紹介します。

海外では1母豚当たりの年間離乳頭数が30頭を超える時代、私達はどうか繁殖成績を伸ばしていけばよいのでしょうか？種豚の能力を引き出すことをテーマに、今回は若雌育成管理についてお話しします。

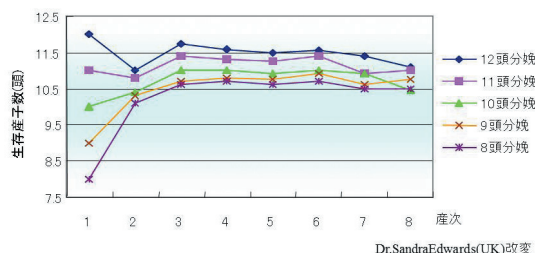
なぜ若雌育成管理なのか？それは初産分娩成績が生涯成績に関係するからです。図1は初回生存産子数の多い母豚はその後多産子数が多い傾向にあることを示しており、最初に産まない母豚は生涯を通じて能力を発揮しません。つまり最初に如何に多くの子豚を産ませるかが繁殖成績にとって重要なのです。

では、繁殖成績を引き出すにはどう育成すればよいのでしょうか？各種豚メーカーのマニュアルや様々な技術資料には初回種付け目標として日齢、体重や背脂肪厚(P2)が記載されています。概ね日齢目標は210～240日齢、体重目標は130～140kg、背脂肪厚(P2)は12～18mmですが、このうち最も重要な目標はどれでしょうか？例えば発育が順調で200日齢で体重140kgに到達し、発情確認できている若雌に種付けを行って良いのでしょうか？日齢か？体重か？ボディコンか？この課題について一つのカギとなる報告があります。豚の生殖器(子宮、卵巣)の大きさは、体重よりも日齢に左右されるというものです。つまり、同体重で210日齢と240日齢の若雌がいた場合、生殖器は240日齢のほうが大きく、繁殖臓器発達には日齢が関係しているのです。このことから、若雌育成は体重よりも日齢を優先することが重要と考えられ、初回種付け目標日齢に適正体重となるよう増体コントロールを行う必要があります。

弊社で行った試験では210日齢前後で種付けした若雌と240日齢前後で種付けした若雌とでは初回総産子数に約1頭の差が生じ(表1)、また増体についてもコントロールが不十分だと成績に影響し(表2)、増体の悪い若雌は適正な増体をした若雌よりも成績が悪化します。過度な増体抑制や発育遅れの若雌を種豚利用することは好ましくないことを示しています。

表3は1～5産の生涯繁殖成績を比較したもので、増体コントロールを行うことで離乳頭数は生涯成績で約5頭増え、初産繁殖成績が良いと生涯繁殖成績が安定します。

最後に、仮に若雌を体重65kg120日齢から育成した場合、240日齢140kgに到達する増体は625g/日で、肉豚の増体850g/日(180日齢116kg出荷)と比較して約25%増体速度を落とす必要があります(図2)。定期的な体重測定や制限給餌の実施をお奨めいたします。右記の初回種付け目標を参考にしてみてください。



Dr.SandraEdwards(UK)改変

▲図1 初回生存産子数別にみる産次別生存産子数の推移

▼表1 初回種付け日齢と初産総産子数

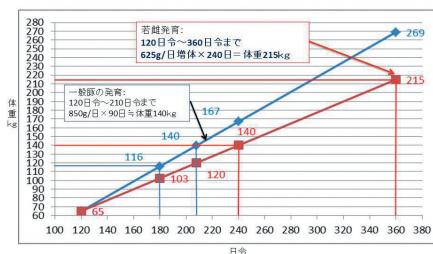
初回種付け日齢	n	総産子数	生時(kg)	初回種付け日齢	初回種付け体重(kg)	初回種付けP2(mm)	導入から初回種付けまでのDG(kg)	10頭未満
<230	23	10.87	1.53	217.2	140.8	17.3	0.639	26.1%
230～249	43	11.86	1.57	238.8	149.1	14.7	0.585	27.9%
250～	39	11.79	1.52	275.8	166.9	16.1	0.560	12.8%

▼表2 若雌導入後～初回種付けまでの増体と初産の総産子数

導入から初回種付けまでのDG(kg)	n	総産子数	生時(kg)	初回種付け日齢	初回種付け体重(kg)	初回種付けP2(mm)	導入から初回種付けまでのDG(kg)	10頭未満
<0.550	39	10.79	1.53	251.3	146.8	14.8	0.489	35.9%
0.550～0.699	39	11.74	1.53	236.0	150.0	16.3	0.615	17.9%
0.700～	20	11.63	1.62	239.8	162.5	16.8	0.773	25.0%

▼表3 初回種付け日齢と体重の関係「1～5産の繁殖成績まとめ」

初回種付け時条件	種付け日齢	種付け体重(kg)	総産子数	哺乳開始頭数/頭	里子頭数/頭	離乳頭数/頭	育成率%	生時体重	240日齢体重
220日齢、140kg	220.3	140.7	57.5	50.6	3.6	49.9	92.1	1.64	5.88
240日齢、140kg	236.9	139.9	65.0	58.3	0.5	55.0	93.6	1.52	5.94
240日齢、150kg以上	243.4	157.8	62.2	56.1	4.9	56.0	91.8	1.60	5.75



▲図2 若雌育成増体

初回種付け目標

- ▶ 体重：130～150kg 日齢：230～250日齢
- ▶ 背脂肪厚：14～16mm (最低12mm、最大18mm)
- ▶ 120日齢前後からの一日平均増体重 600～700g/日
- ▶ 生涯一日平均増体重(0～240日齢) 550～650g/日
- ▶ 3回目以降の発情

トピックス

千葉県認定農場の こども食堂への協力がさらに拡大

本誌で何度かご紹介しております千葉県内の認定農場の千葉縣市川市「市川こども食堂」ネットワークへの豚肉提供ですが、一昨年11月の開始から今年3月までに計15回を数え、のべ600人の方々（うち子ども254名）にSPFポークのおいしさを味わってもらうことができました。開催拠点や参加者も増えています。ご提供いただく部位もメニューや用途に合わせて、バラ、肩ロース、ロース、モモ、ひき肉などさまざま、また、ハムなどの加工品もいただきました。お肉以外にも近隣野菜農家にお声掛けいただいたり、日本農産工業ピラミッド系列の房総ファーム(株)には卵をご提供いただいたりと協力の輪が広がっています。

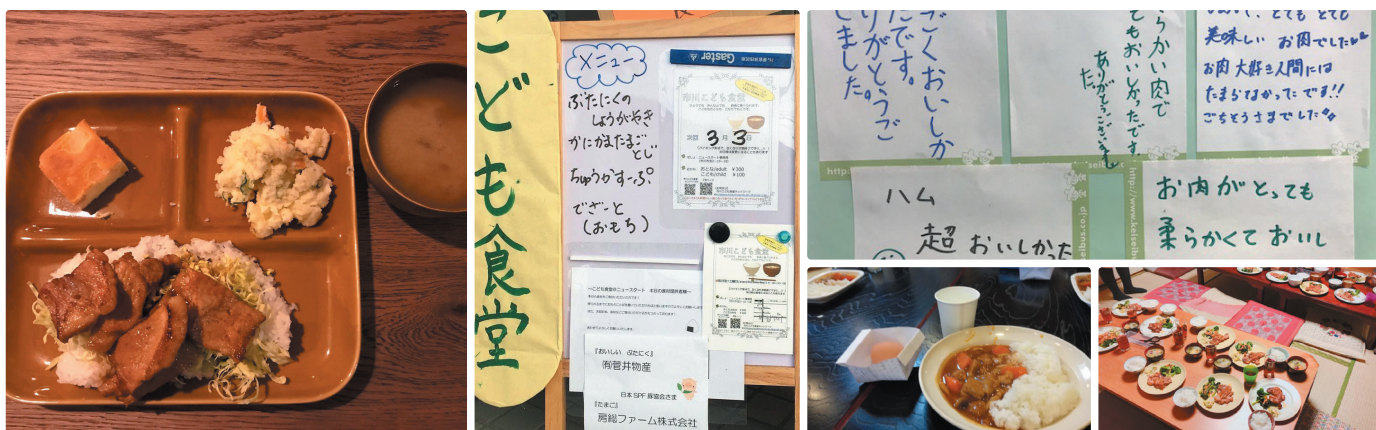
参加者や担当スタッフからは「やわらかいお肉がたくさん入って豪華だった」「家では食が細くあんなにたく

さん食べたのは初めて」「豚肉は苦手だったが、くさみがなくておいしくびっくりした」「こんなに味が違うとは」「調理中からいいにおい〜と興奮気味で、ご飯が足りなくなるほどお代わりする子も」「もっと食べたい」と言った驚きと感謝の声が届いています。中には子どもや若いスタッフの「久しぶりにこんな食事をした」といった、若年層の食生活の貧困さがうかがわれるコメントもありました。息の長い支援の重要性を感じました。

現在ご協力いただいている認定農場グループは次の通りです（順不同）。

(株)林商店肉豚出荷組合（7農場、東庄町）、(有)下山農場（旭市）、JAかとり東庄SPF豚研究会（13農場、東庄町）、(有)菅井物産（2農場、旭市）

今後ともどうぞよろしく願いいたします。



協会からのお知らせ

●理事会を開催

平成29年度の理事会を3月23日（金）、協会事務所に開催し、6月の定時総会（6月14日開催予定）に諮る議事等について協議いたしました。

●代議員・理事の交代

組織内人事異動に伴い、日本農産工業ピラミッドの代議員および理事が、大関輝男氏から金子政弘氏に交代いたしました。

●日本SPF豚研究会が7月に開催されます

日本SPF豚研究会集会在7月18日（水）午後、東京千代田区の学士会館において開催される予定です。詳細は研究会事務局（伊藤忠飼料(株)研究所内 TEL.0287-64-3652, FAX.0287-63-8384）までお問い合わせください。

<訂正>

前号の賛助会員紹介の記事の中で、日清丸紅飼料(株)の研究所の名前が間違っておりました。正しくは日清丸紅飼料(株)総合研究所です。お詫びして訂正いたします。

プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



SPFポーク Dango

●レシピ提供・climat (クリマ)

オーナーシェフ 関川裕哉 (北海道北斗市)

今回レシピを提供いただいた関川シェフは昨年、出身地・北海道道南にこだわりのフレンチレストランをオープン、今話題のJR東日本の豪華寝台列車「トランスイート四季島」の料理人も務めています。お祝いの席やホームパーティにぴったりのおしゃれな逸品をご紹介します。ぜひお試しください。

●材料● (6個分)

- ・ SPFポーク (ロース、肩ロース、肩など) 200g
- ・ りんご 20 g
- ・ おろししょうが 6 g
- ・ 塩 適量
- ・ コーンスターチ (または片栗粉) 適量
- ・ サラダ油 適量
- ・ しょうゆ 40cc
- ・ りんご酢 30cc
- ・ 水 100cc
- ・ コーンスターチ (または片栗粉) 適量
- ・ みょうが 適量
- ・ 刻みサラダ (お好みでなんでも)

●つくり方●

- ① 豚肉とりんごを約5mm角にカットします。
- ② ボールに①と塩、おろししょうが、コーンスターチを入れてよく混ぜ合わせます。
- ③ まとまったら団子状に形を整えコーンスターチをまぶし180℃の油で揚げます。
- ④ ポン酢タレを作ります。鍋にしょうゆ、りんご酢、水を入れて火にかけ、水溶きコーンスターチで濃度を調整します。
- ⑤ お皿に刻みサラダと楊枝に刺した③をのせ、上から④をかけます。仕上げに刻んだみょうがをふりかけます。

★関川シェフからのアドバイス

豚肉と相性の良いりんごを使いました。団子は大きくせず、小さめに。ピンチョスのようなイメージです。

認定情報

●平成30年3月認定農場

(有効期間：平成30年3月8日から31年3月末日まで)

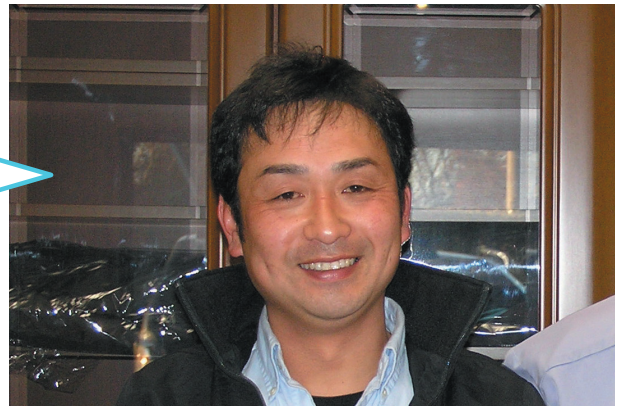
北海道・全農飼料畜産中央研究所上士幌種豚育種研究室、秋田県・(有)十和田湖高原ファーム、全農畜産サービス(株)由利本荘SPF豚センター、(株)シムコ大館GGPセンター、宮城県・サンエス丸森農場、(株)シムコ岩出山事業所、茨城県・(有)中村畜産、全農飼料畜産中央研究所、同実験動物豚舎、(株)畜産経営研究所前橋農場、千葉県・(株)シムコ館山事業所、(株)スターピッグファーム、鈴木治彦養豚、飯田養豚、(有)ピギー・ジョイ第2農場繁殖農場、同肥育農場、(有)伊藤養豚飯岡農場、(有)鍋木ビッグファーム、平

野英夫SPF豚農場、宝理養豚繁殖農場、同肥育農場、長野県・(農)エスピーエフこがねや第二農場、JA全農長野SPF繁殖センター、JA大北白馬アルプス農場、富山県・(株)シムコ八尾GGPセンター、愛知県・(株)知多ピッグ前山農場、同美浜農場、島根県・奥出雲ファーム(有)、熊本県・全農畜産サービス(株)西日本原種豚場、(有)やまとんファーム、(有)ピッグファーム陳、(株)佐々牧場、同第二農場、宮崎県・(株)ナンチクファーム守山細田農場、鹿児島県・鹿児島いずみ畜産(株)出水農場、同阿久根農場 (以上36農場)

※次回認定委員会は平成30年6月7日(木)の予定



菅井哲也さん
(千葉県旭市)



気楽な次男坊が養豚家DNAに導かれて農場へ 「趣味は豚」と言い切る経営者に

菅井哲也さんは千葉県旭市にある母豚規模800頭のSPF認定農場の責任者。父 税^{みつぎ}さんが創業、現在5歳上の兄^{のぶる}伸さんが社長を務める(有)菅井物産は、同じく800頭規模の認定農場を含め計4農場を運営しています。

子どもの頃は次男坊の気楽さやご両親が忙しかったこともあり「まったくの放任主義で自由気まま、かまってもらったり、叱られた記憶がない」そうです。代わりに厳しかったのが小学4年生から通った空手道場の師範代。お父さんの友人でもあり礼儀作法含め一から鍛えられ「いまだに苦手です」(笑)。

農業高校を卒業後、畜産関係の大学に進学するものの、「想像とは全然違った東京のキャンパスライフになじまず」地元に戻り就職、食品卸会社の営業として10年近く勤務します。持ち前の愛嬌のある笑顔で実績もあげて、それなりに面白かったのですが、「先が見えてしまって」退職。転職先を探す中、アルバイト感覚で実家のSPF豚農場に入りますが「忙しすぎて転職活動どころじゃなかった(笑)」。1作業員としてのスタートでした。

子供のころから豚が身近で農場の手伝いも嫌いではなかったそうです。30歳を迎えた2005年、結婚を機に現在の(有)菅井物産飯岡SPF農場を立ち上げることとなりました。「人生の、仕事の責任を持つとは、こういうことなんだなと

思いました」。農場経営へと意識が変わった時だったのかもしれませんが。もともと器用で機械いじりも好きだったこともあって、農場の建設段階から携わりました。

豚のことも「まったくわからないところからのスタート。一歩先がどうなるか見えていないから、必死で勉強しました」。ピラミッドの農場や近くのSPF豚農場に研修に赴き指導を仰いだそうです。

また、大きかったのが、豚が大好きという数字に強い女性従業員、岩崎睦さんの存在でした。さまざまなデータに裏打ちされた分析をもとに切磋琢磨し「データに基づく農場管理」を実践、安定した農場経営に結びついたそうです。「管理マニュアルや、固定概念は当てにならない。自らの目で確かめることが大事です」。

小学4年生の息子さんと小学2年生のお嬢さんも豚が大好きで、「ぬいぐるみも豚しか選ばない」のだそうです。豚を育てるスマホのアプリに夢中とのことで、まさに豚大好きDNA(?)が受け継がれているようです。

20代から続けているゴルフより「今は豚が趣味かも。頭の中はほぼ豚のことですね」。

現在、11人の従業員を束ねる哲也さん、「スタッフは仲間、彼らが自慢できる会社になりたい」とさらなるレベルアップを目指しています。(編集部)

編集後記

イノベーションという言葉は、耳にタコができるくらい聞かれています。新年度です。新鮮な視点で現状を見つめ直してみましょう。小さなアイデアの積み重ねが大事です。アイデアは早々浮かぶものではありません。考えあぐねた末にとんでもないところに飛んで出てくるのです。それを見逃さず、こまめに捕まえる努力が必要です。他人の頭脳も活用しましょう。連想ゲームの要領です。楽しい会話は感性を磨き、無限の広がりを持ちます。年齢に関係なく、刺激し合える仲間をたくさん作る事が大切でしょう。(世)



日本SPF豚協会認定農場産シール
このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第71号 2018年4月1日発行(季刊)
発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail:j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人 北島 克好
編集人 藤田 世秀